

令和7年度洲本市自立支援型地域ケア個別会議（報告）



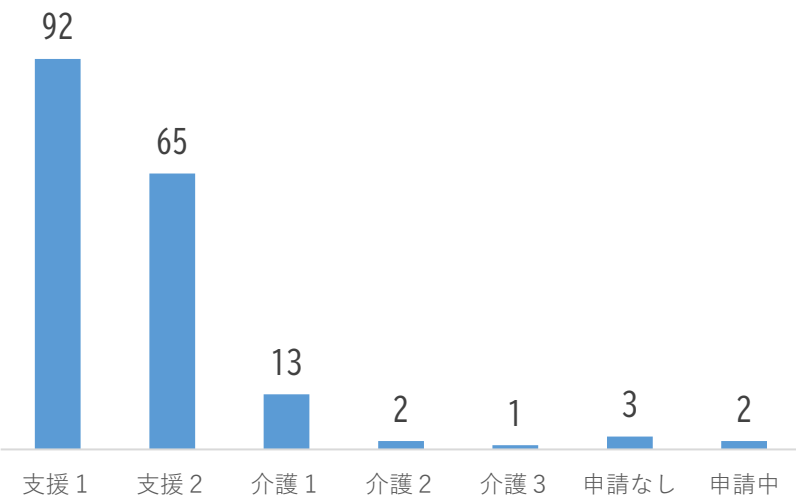
R7年度洲本市自立支援型地域ケア個別会議

開催回数（回） 33回
検討件数（件） 178件（延べ）

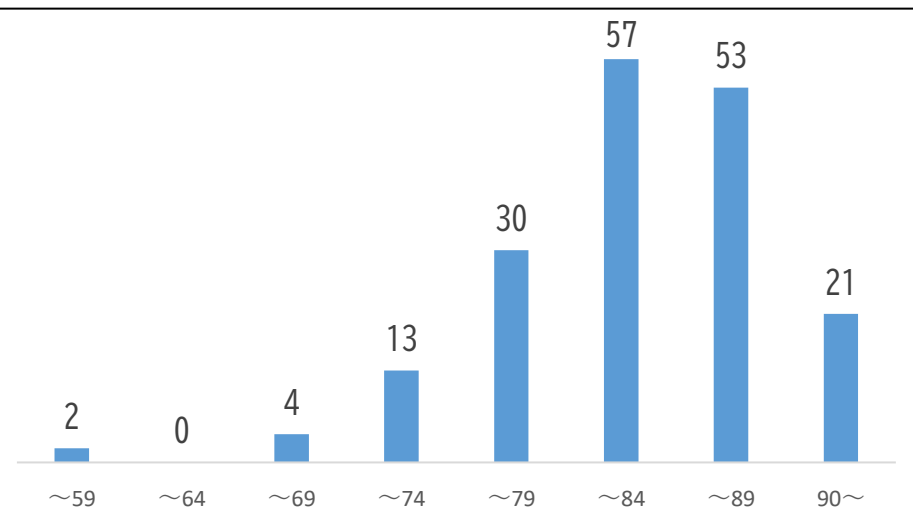
R7年度事例対象者と事例検討数

- ①モニタリングケース（55件）
- ②トライ教室利用者（98件）
- ③新規ケース、継続で検討したいケース（20件）
- ④生活保護受給者のケース（2件）
- ⑤リハビリ教室利用者（3件）

R7年度事例検討介護度（人）



R7年度事例検討年齢（人）



会の中で出てきた地域課題

見守り

- ・身寄り（支援者）がない高齢者の増加
- ・家族関係、近隣との関係が希薄
- ・在宅でご夫婦とも認知症
- ・8050問題
- ・同居家族に精神疾患や障がい者を抱えている方への対応
- ・家族全体をマネジメントする必要があるケースの増加

受け皿

- ・トライ教室終了後、卒業につながる方が少ない
- ・ヘルパーの確保が難しい
- ・ケアマネジャーが減少している
- ・山間部では、介護サービス事業所がない

通いの場

- ・男性の通う場所が少ない、繋がらない
- ・地域によって通いの場（外出する場）がない
- ・老人会等の通いの場が解散
- ・通いの場を知らない方もいる
- ・知り合い同士の送迎（乗り合わせ）も難しくなっている

生活

- ・移動手段がない方へのサポート
- ・シニアカーやシルバーカーなどの代替えを嫌がる
- ・タクシーが来ない、市内でもすぐに来てもらえない
- ・住宅改修が難しい在宅での生活
- ・食へのこだわりが強く偏食になっている
- ・物価高騰により食事内容が変化している
- ・買取詐欺や振込詐欺

会の中で出てきた地域課題

情報

- ・スマホを遅くまで見て、生活リズムが乱れている方が増えている。
- ・スマホの使い方が分からない高齢者も多い。
- ・イベント等の周知が難しい。

病気

- ・糖尿病、難病、認知症の方が増えている印象を受ける。
- ・病識が低い方への声掛けや対応の仕方が難しい。
- ・多くの薬を服用している。
- ・認知症と他の精神疾患との判別が難しい。

その他

- ・アルコール問題、ソーシャルフレイル問題
- ・男性が食事面を担い大変になっているケース
- ・介護負担で介護者が大変になっているケース
- ・過介護になり過ぎて本人がフレイル傾向になってしまっているケース

会を通して感想（一部抜粋）

- ・本人の思いだけが医療側に伝わり、偏った情報になっていることもあるので、正しいニーズをつかめるように医療と介護間の情報を調整したい。（在宅医療・介護連携）
- ・人口減少や地域資源の減少により受け皿が減っているため、自立してもらうことは大切だと思う。
- ・病院同士の連携、事業所同士の連携も必要（病病連携、事業所事業所連携）
- ・電子処方箋が始まることで、パソコン上で対象者の薬剤の処方内容が分かる。調剤薬局では、9割で対応可能なので、内服の重複がなくなると思う。
- ・退院カンファレンスの時点で、ケアマネジャーが決まっていないこともあるが、この会議で繋がりを持てたらと思う。（退院前カンファレンス）
- ・サービスを導入しようとしても本人が望んでいないことも多い。本人への動機付け、家族にも協力依頼するタイミングは重要になってくる。
- ・この会を通して、専門職同士が顔見知りになり、気軽に相談できること繋がりが持てたことに感謝している。
- ・トライ教室の書類の中に血液データや家屋の写真、認知症の検査結果などを添付していたり、紹介の中で写真や動画を見せてくれると、よりケース像が見えてくるのでありがたい。
- ・トライ教室参加後、卒業者は多くないが改善されたケースもあり成果はあったと思う。

会の中で出てきた提案

- ・移動型のデイサービスなどの仕組みも必要ではないか。
- ・病院でスマホの体験会を開催してはどうか。
- ・中川原、安乎、五色などは、歯科医院が少ないので受診に関するシステムが出来ればと思う。
- ・傾聴ボランティア
- ・初期の認知症の方に対し認知症疾患初期集中チームとの連携
- ・住民に提供できる行政サービスとして、食、移動、資源などまとめてはどうか。

R8年度 洲本市自立支援型地域ケア個別会議 出席アドバイザー職種一覧（案）

	1週目（奇数月）	2週目（偶数月）	3週目（奇数月）	4週目（偶数月）	5週目（奇数月）
司 会	長寿支援係				
アドバイザー	薬剤師	薬剤師	薬剤師	薬剤師	薬剤師
			理学療法士	理学療法士	理学療法士
	作業療法士	作業療法士			
		言語聴覚士		言語聴覚士	
	精神保健福祉士				
	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士
	歯科衛生士	歯科衛生士	歯科衛生士	歯科衛生士	歯科衛生士
		主任介護支援専門員	主任介護支援専門員	主任介護支援専門員	主任介護支援専門員

R8年度事例対象者

- ①モニタリングケース
- ②トライ教室利用者
- ③新規ケース、継続で検討したいケース
- ④生活保護受給者またはケースワーカーが気になるケース
- ⑤要介護1でデイサービス利用者
- ⑥その他（リハビリ教室利用者、ヘルパー回数が多い事例など）

地域の多様な資源

“サービス” 専門職等

“助け合い” なじみの関係



出典 三菱UFJリサーチ&コンサルティング「地域包括ケアシステムの構築に資する新しい介護予防・日常生活支援移動事業等の推進のための総合的な市町村職員に対する研修プログラムの開発及び普及に関する調査研究事業 報告書」、平成28年度厚生労働省老人保健健康増進等事業